



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔IFRS〕(連結)

2026年1月30日

上場取引所 東

上場会社名 第一三共株式会社

コード番号 4568 URL <https://www.daiichisankyo.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 奥澤 宏幸

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 朝倉 健太郎 TEL 03-6225-1125

配当支払開始予定期

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト、報道関係者向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

#### (1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上収益		コア営業利益		営業利益		税引前利益		四半期利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	1,533,459	12.1	249,196	8.8	233,775	△5.9	269,950	△1.8	217,446	4.2
	1,367,567	16.6	229,009	33.0	248,311	27.6	275,000	37.6	208,603	27.1

	親会社の所有者に帰属する四半期利益		四半期包括利益合計額		基本的1株当たり四半期利益		希薄化後1株当たり四半期利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	円 銭		円 銭	
2025年3月期第3四半期	217,446	4.2	267,280	11.7	117.34		117.28	
	208,603	27.5	239,178	15.0	109.65		109.58	

(注) 当社グループは、経常的な収益性を示す指標として営業利益から一過性の損益を除外したコア営業利益を開示しております。コア営業利益の定義につきましては、2ページ「1. 経営成績等の概況 (1) 当四半期の経営成績の概況」をご覧ください。

#### (2) 連結財政状態

	資産合計		資本合計		親会社の所有者に帰属する持分	親会社所有者帰属持分比率	1株当たり親会社所有者帰属持分
2026年3月期第3四半期	百万円		百万円		百万円	%	円 銭
2025年3月期	3,821,811		1,710,549		1,710,549	44.8	924.09
	3,456,119		1,623,416		1,623,416	47.0	869.69

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 30.00	円 銭 —	円 銭 30.00	円 銭 60.00
2026年3月期	円 銭 —	円 銭 39.00	円 銭 —	円 銭 39.00	円 銭 78.00
2026年3月期(予想)	円 銭 —	円 銭 39.00	円 銭 —	円 銭 39.00	円 銭 78.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		コア営業利益		営業利益		税引前利益		当期利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益	基本的1株当たり 当期利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
	2,100,000	11.3	350,000	11.9	335,000	0.9	355,000	△0.2	288,000	△2.6	288,000	△2.6

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有

新規 一社（社名）、除外 2社（社名）第一三共プロファーマ株式会社、第一三共ケミカルファーマ株式会社

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期 3Q	1,894,350,529株	2025年3月期	1,908,322,129株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3Q	43,292,642株	2025年3月期	41,668,788株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期 3Q	1,853,129,945株	2025年3月期 3Q	1,902,491,746株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

なお、業績予想に関する事項は、9ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
① 業績全般の概況 .....	2
【連結業績（コアベース）】 .....	2
【ユニット別売上収益状況】 .....	4
② 研究開発の状況 .....	6
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	9
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	9
(4) 株主還元に関する説明 .....	9
2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	10
(1) 要約四半期連結財政状態計算書 .....	10
(2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書 .....	12
要約四半期連結損益計算書 .....	12
要約四半期連結包括利益計算書 .....	13
(3) 要約四半期連結持分変動計算書 .....	14
(4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	16
(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	17
(継続企業の前提に関する注記) .....	17
(表示方法の変更) .....	17
(セグメント情報) .....	17

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

#### ① 業績全般の概況

##### 【連結業績（コアベース）】

(単位：百万円。百万円未満切捨て)

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期	対前年同期増減
売 上 収 益	1,367,567	1,533,459	165,892 12.1%
売 上 原 価 *	321,392	335,220	13,828 4.3%
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 *	516,614	610,364	93,749 18.1%
研 究 開 発 費 *	300,550	338,678	38,127 12.7%
コ ア 営 業 利 益 *	229,009	249,196	20,186 8.8%
一 過 性 の 収 益 *	21,454	4,365	△17,088 △79.7%
一 過 性 の 費 用 *	2,152	19,786	17,633 819.1%
営 業 利 益	248,311	233,775	△14,535 △5.9%
税 引 前 四 半 期 利 益	275,000	269,950	△5,050 △1.8%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	208,603	217,446	8,842 4.2%
四 半 期 包 括 利 益 合 計 額	239,178	267,280	28,101 11.7%

※ 当社グループは、経常的な収益性を示す指標として、営業利益から一過性の収益・費用を除外したコア営業利益を開示しています。一過性の収益・費用には、固定資産売却損益、事業再編に伴う損益（開発品や上市製品の売却損益を除く）、有形固定資産・無形資産・のれんに係る減損損失、損害賠償や和解等に伴う損益の他、非経常的かつ多額の損益が含まれます。

本表では、売上原価、販売費及び一般管理費、研究開発費について、一過性の収益・費用を除く実績を示しています。営業利益からコア営業利益への調整表は、決算補足資料に記載しています。

##### <主要通貨の日本円への換算レート（期中平均レート）>

	2025年3月期 第3四半期	2026年3月期 第3四半期
1米ドル/円	152.56	148.75
1ユーロ/円	164.82	171.84

**a. 売上収益**

- ・当第3四半期累計期間（2025年4月1日～12月31日）の売上収益は、前年同期比1,659億円（12.1%）増収の1兆5,335億円となりました。
- ・円高の進行による為替の減収影響があったものの、グローバル主力品エンハーツ（一般名：トラスツズマブ デルクステカン：T-DXd/DS-8201）等の伸長、及びダトロウェイ（一般名：ダトポタマブ デルクステカン：Dato-DXd/DS-1062）の売上寄与により、増収となりました。
- ・売上収益に係る為替の減収影響は33億円でした。

**b. コア営業利益**

- ・コア営業利益は、前年同期比202億円（8.8%）増益の2,492億円となりました。
- ・売上原価は、売上収益の増加に伴い、138億円（4.3%）増加の3,352億円となりました。
- ・販売費及び一般管理費は、アストラゼネカとのプロフィット・シェアの増加による費用増等により、937億円（18.1%）増加の6,104億円となりました。
- ・研究開発費は、5DXd ADCs（トラスツズマブ デルクステカン、ダトポタマブ デルクステカン、パトリツマブ デルクステカン：HER3-DXd/U3-1402、イフィナタマブ デルクステカン：I-DXd/DS-7300、ラルドタツグ デルクステカン：R-DXd/DS-6000）への研究開発投資の増加等により、前年同期比381億円（12.7%）増加の3,387億円となりました。
- ・コア営業利益に係る為替の増益影響は64億円でした。

**c. 営業利益**

- ・営業利益は、前年同期比145億円（5.9%）減益の2,338億円となりました。
- ・前期は第一三共エスファ株式会社の株式譲渡益が一過性の収益として計上されていましたが、当期はその影響がなく一過性の収益が減少したこと、また、当期にHER3-DXdに関する製造委託先への損失補償等を一過性の費用に計上したことにより、減益となりました。

**d. 税引前四半期利益**

- ・税引前四半期利益は、前年同期比51億円（1.8%）減益の2,700億円となりました。
- ・為替差損益の改善等により、金融収支が改善したため、営業利益に比べて減益額が縮小しました。

**e. 親会社の所有者に帰属する四半期利益**

- ・親会社の所有者に帰属する四半期利益は、法人税等の減少により、前年同期比88億円（4.2%）増益の2,174億円となりました。

**f. 四半期包括利益合計額**

- ・四半期包括利益合計額は、海外子会社の純資産に係る為替換算差額が増加したこと等により、前年同期比281億円（11.7%）増益の2,673億円となりました。

## 【ユニット別売上収益状況】

当第3四半期累計期間におけるユニット別売上収益は、次のとおりです。なお、製品別の売上収益については、決算補足資料に記載しています。

### a. ジャパンビジネスユニット

ジャパンビジネスユニットの売上収益には、イノベータイプ医薬品事業及びワクチン事業の製品の売上収益が含まれております。

当ユニットの売上収益は、リクシアナ、タリージェ等の伸長、及びダトロウェイ、ペルソムラの売上寄与により、前年同期比52億円（1.3%）増収の3,908億円となりました。

当第3四半期累計期間における主な進捗は次のとおりです。

- ・2025年8月、エンハーツの化学療法未治療のHER2低発現又はHER2超低発現の乳がんの承認取得及びプロモーションの開始

### b. 第一三共ヘルスケアユニット

第一三共ヘルスケアユニットの売上収益は、クリーンデンタル、ロキソニン等の伸長により、前年同期比32億円（4.7%）増収の706億円となりました。

### c. オンコロジービジネスユニット

オンコロジービジネスユニットの売上収益には、第一三共Inc.（米国）及び第一三共ヨーロッパのがん製品売上収益が含まれております。

当ユニットの売上収益は、欧米におけるエンハーツ等の伸長、及びダトロウェイの売上寄与により、前年同期比1,021億円（30.3%）増収の4,392億円、現地通貨ベースでは、743百万米ドル（33.6%）増収の2,953百万米ドルとなりました。

当第3四半期累計期間における主な進捗は次のとおりです。

- ・2025年6月、欧州におけるダトロウェイの発売（適応：内分泌療法及び化学療法歴のあるホルモン受容体陽性かつHER2陰性（IHC 0, IHC 1+ 又は IHC 2+/ISH-）の乳がん）
- ・2025年6月、米国におけるダトロウェイのEGFR遺伝子変異を有する非小細胞肺がんを対象とした承認取得及びプロモーションの開始
- ・2025年12月、米国におけるエンハーツとペルツズマブの併用療法についてHER2陽性乳がんの1次治療を対象とした承認取得及びプロモーションの開始

### d. アメリカンリージェントユニット

アメリカンリージェントユニットの売上収益は、インジェクタファー、ヴェノファー等の減収影響により、前年同期比280億円（16.5%）減収の1,419億円、現地通貨ベースでは、159百万米ドル（14.3%）減収の954百万米ドルとなりました。

### e. EUスペシャルティビジネスユニット

EUスペシャルティビジネスユニットの売上収益には、がん製品を除く第一三共ヨーロッパの製品売上収益が含まれております。

当ユニットの売上収益は、Nilemdo/Nustendiの伸長により、前年同期比218億円（12.2%）増収の2,001億円、現地通貨ベースでは83百万ユーロ（7.6%）増収の1,165百万ユーロとなりました。

#### f. ASCAビジネスユニット

ASCA<sup>※1</sup> ビジネスユニットの売上収益には、海外ライセンシーへの売上収益等が含まれております。

当ユニットの売上収益は、中国におけるエンハーツの伸長等により、前年同期比322億円(20.8%) 増収の1,872億円となりました。

※1 Asia, South & Central Americaの略

当第3四半期累計期間における主な進捗は次のとおりです。

- ・2025年12月、中国におけるエンハーツの化学療法未治療のHER2低発現又はHER2超低発現の乳がんの承認取得及びプロモーションの開始

## ② 研究開発の状況

当社グループは、5つのDXd ADC<sup>※1</sup>の製品価値最大化を目指してリソースを集中投入するとともに、持続的成長の実現に向けてSOC<sup>※2</sup>を変革する製品群（Next Wave）の創薬を目指す「5DXd ADCs and Next Wave」戦略のもと、グローバル臨床開発の加速化にも注力して研究開発に取り組んでおります。

中長期的には、がんに加え、当社のサイエンス&テクノロジーの優位性を活かして様々な疾患に対する治療薬創製を目指し、新規モダリティ<sup>※3</sup>の技術研究等を通じた創薬力の強化に取り組んでおります。

※1 ADCはAntibody Drug Conjugateの略、抗体薬物複合体。抗体医薬と薬物（低分子医薬）を適切なリンカーを介して結合させた医薬品で、がん細胞に発現している標的因子に結合する抗体医薬を介して薬物をがん細胞へ直接届けることで、薬物の全身曝露を抑えつつ、がん細胞への攻撃力を高めた薬剤。DXd ADCは当社独自の薬物とリンカーを抗体に結合させたもの

※2 Standard of Careの略。現在の医学では最善とされ、広く用いられている治療法

※3 モダリティとは低分子薬、抗体医薬、ADC、核酸医薬、遺伝子治療等の治療手段のこと

### 【5DXd ADCs】

当第3四半期累計期間における5DXd ADCsの臨床開発の状況は次のとおりです。なお、各臨床試験の状況については、決算補足資料に掲載しています。

トラスツズマブ デルクステカン及びダトポタマブ デルクステカンは、アストラゼネカと共同開発しております。また、パトリツマブ デルクステカン、イフィナタマブ デルクステカン、ラルドタツグ デルクステカンについては、Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA（以下「米国メルク」）と共同開発しております。

#### a. トラスツズマブ デルクステカン (T-DXd/DS-8201 : 抗HER2 ADC、製品名 : エンハーツ)

当第3四半期累計期間における主な進捗は次のとおりです。

- ・2025年4月、化学療法未治療のホルモン受容体陽性かつHER2低発現又はHER2超低発現の乳がんを対象とした欧州における承認の取得及び中国における承認申請の受理
- ・2025年4月、HER2陽性胃がんの1次治療を対象としてフルオロピリミジン及びペムブロリズマブとの3剤併用療法を評価するフェーズ3試験（試験名：DESTINY-Gastric05）の開始
- ・2025年4月、HER2陽性乳がんの1次治療を対象としたフェーズ3試験（試験名：DESTINY-Breast09）の中間解析における結果概要の発表
- ・2025年4月、HER2陽性の進行・再発の複数の固形がんを対象とした日本における承認申請の受理
- ・2025年5月、再発リスクの高いHER2陽性の早期乳がんにおける術前療法を対象としたフェーズ3試験（試験名：DESTINY-Breast11）の主要な解析の結果概要の発表
- ・2025年6月、米国臨床腫瘍学会（ASCO）におけるHER2陽性胃がん2次治療を対象としたフェーズ3試験（試験名：DESTINY-Gastric04）の初のデータ発表
- ・2025年6月、ASCOにおけるDESTINY-Breast09試験の初のデータ発表
- ・2025年6月、HER2発現（IHC 3+ 又は 2+）の子宮内膜がんの1次治療を対象としてrilvegostomig又はペムブロリズマブとの併用療法を評価するフェーズ3試験（試験名：DESTINY-Endometrial01）の開始
- ・2025年7月、ペルツズマブとの併用療法についてHER2陽性乳がんの1次治療を対象とした米国食品医薬品局（FDA）からの画期的治療薬指定<sup>※4</sup>の獲得
- ・2025年8月、ホルモン受容体陽性かつHER2低発現又はHER2超低発現の乳がんを対象とした日本における承認の取得
- ・2025年9月、HER2陽性（IHC 3+）の進行・再発の複数の固形がんを対象とした欧州における承認申請の受理

- ・2025年9月、ペルツズマブとの併用療法についてHER2陽性乳がんの1次治療を対象とした米国における承認申請の受理及び優先審査<sup>※5</sup>の指定獲得
- ・2025年9月、術前療法後に浸潤性残存病変を有する再発リスクの高いHER2陽性乳がんを対象とした、フェーズ3試験（試験名：DESTINY-Breast05）の結果概要の発表
- ・2025年10月、再発リスクの高いHER2陽性早期乳がんの術前療法を対象とした米国における承認申請の受理
- ・2025年10月、ペルツズマブとの併用療法についてHER2陽性乳がんの1次治療を対象とした日本における承認申請の受理
- ・2025年10月、欧州臨床腫瘍学会（ESMO）におけるDESTINY-Breast05試験及びDESTINY-Breast11試験の最新データの発表
- ・2025年10月、HER2過剰発現かつ、アクショナブル遺伝子変異<sup>※6</sup>がなく、PD-L1発現率が50%未満の非扁平上皮非小細胞肺がんの1次治療を対象としたフェーズ3試験（試験名：DESTINY-Lung06）の開始
- ・2025年12月、HER2発現（IHC 3+/2+/1+）の卵巣がんにおけるプラチナ製剤ベースの化学療法とベバシズマブの併用療法による治療後の1次維持療法を対象としたフェーズ3試験（試験名：DESTINY-Ovarian01）の無作為化パートを開始
- ・2025年12月、ペルツズマブとの併用療法についてHER2陽性乳がんの1次治療を対象とした米国における承認の取得
- ・2025年12月、HER2発現（IHC 3+ 又は 2+）の子宮内膜がんの術後補助療法を対象としたフェーズ3試験（試験名：DESTINY-Endometrial02）の開始
- ・2025年12月、術前療法後に浸潤性残存病変を有する再発リスクの高いHER2陽性乳がんを対象としたFDAからの画期的治療薬指定の獲得
- ・2025年12月、化学療法未治療のホルモン受容体陽性かつHER2低発現又はHER2超低発現の乳がんを対象とした中国における承認の取得

※4 重篤な疾患を対象に、既存の治療薬よりも高い治療効果を示す可能性のある薬剤の開発と審査を促進し、患者により早く新薬を届けるために定められた制度

※5 米国において、治療上重要な進歩をもたらす薬剤や、現在適切な治療法がない疾患への治療法を提供する薬剤に対して指定され、通常審査期間（10ヶ月目標）に比べ審査期間の短縮（6ヶ月目標）が見込まれる

※6 現時点において、がんに対する治療ターゲットとなりうる遺伝子変異

## b. ダトポタマブ デルクステカン (Dato-DXd/DS-1062 : 抗TROP2 ADC、製品名：ダトロウェイ)

当第3四半期累計期間における主な進捗は次のとおりです。

- ・2025年4月、内分泌療法及び1つ以上の化学療法を受けたホルモン受容体陽性かつHER2陰性（IHC 0, IHC 1+ 又は IHC 2+/ISH-）の乳がんを対象とした欧州における承認の取得
- ・2025年6月、免疫チェックポイント阻害薬との併用療法について、アクショナブル遺伝子変異<sup>※6</sup>のない非小細胞肺がんの1次治療を対象とした2つのフェーズ1b試験（試験名：TROPION-Lung02、TROPION-Lung04）及び術前・術後薬物療法を対象としたフェーズ2試験（試験名：NeoCOAST-2）の最新データのASCOにおける発表
- ・2025年6月、EGFR標的療法及びプラチナベースの化学療法の前治療歴のある、EGFR遺伝子変異を有する非小細胞肺がんを対象とした米国における承認の取得
- ・2025年8月、内分泌療法及び1つ以上の化学療法を受けたホルモン受容体陽性かつHER2陰性（IHC 0, IHC 1+ 又は IHC 2+/ISH-）の乳がんを対象とした中国における承認の取得
- ・2025年10月、免疫療法による治療の対象とならないトリプルネガティブ乳がんの1次治療を対象としたフェーズ3試験（試験名：TROPION-Breast02）の最終解析における結果概要の発表

- ・2025年10月、ESMOにおけるTROPION-Breast02試験の最新データの発表
- ・2025年10月、ESMOにおけるフェーズ2試験（試験名：TROPION-PanTumor03）の尿路上皮がん1次/2次治療を対象としたコホートについて最新データの発表
- ・2025年10月、前治療歴のある転移性尿路上皮がんを対象としたフェーズ2/3試験（試験名：TROPION-Urothelial03）の開始
- ・2025年12月、PD-1/PD-L1阻害剤による治療の対象とならないトリプルネガティブ乳がんの1次治療を対象とした欧州における承認申請の受理

**c. パトリツマブ デルクステカン (HER3-DXd/U3-1402 : 抗HER3 ADC)**

当第3四半期累計期間における主な進捗は次のとおりです。

- ・2025年5月、米国におけるEGFR遺伝子変異を有する非小細胞肺がんに係る承認申請<sup>※7</sup>の自動的な取り下げ
- ・2025年6月、ASCOにおけるEGFR遺伝子変異を有する非小細胞肺がんの2次治療を対象としたフェーズ3試験（試験名：HERTHENA-Lung02）の初のデータ発表
- ・2025年8月、ホルモン受容体陽性かつHER2陰性（IHC 0, IHC 1+ 又は IHC 2+/ISH-）の手術不能又は転移性乳がんを対象としたフェーズ3試験（試験名：HERTHENA-Breast04）の開始

※7 フェーズ2試験（試験名：HERTHENA-Lung01）の結果に基づく承認申請

**d. イフィナタマブ デルクステカン (I-DXd/DS-7300 : 抗B7-H3 ADC)**

当第3四半期累計期間における主な進捗は次のとおりです。

- ・2025年4月、進展型小細胞肺がんの2次治療以降を対象としたフェーズ2試験（試験名：IDeate-Lung01）の試験結果の入手
- ・2025年5月、食道扁平上皮がんの2次治療を対象としたフェーズ3試験（試験名：IDeate-Esophageal01）の開始
- ・2025年6月、化学療法歴のない転移性去勢抵抗性前立腺がんを対象としたフェーズ3試験（試験名：IDeate-Prostate01）の開始
- ・2025年8月、プラチナ製剤ベースの化学療法中又は治療後に病勢進行した進展型小細胞肺がん治療を対象としたFDAからの画期的治療薬指定の獲得
- ・2025年9月、世界肺がん学会（WCLC）における前治療歴のある進展型小細胞肺がんを対象としたフェーズ2試験（試験名：IDeate-Lung01）の最新データの発表

**e. ラルドタツグ デルクステカン (R-DXd/DS-6000 : 抗CDH6 ADC)**

当第3四半期累計期間における主な進捗は次のとおりです。

- ・2025年9月、ベバシズマブによる治療歴のあるCDH6発現のプラチナ製剤抵抗性の上皮性卵巣がん、原発性腹膜がん及び卵管がん治療を対象としたFDAからの画期的治療薬指定の獲得
- ・2025年10月、プラチナ製剤抵抗性卵巣がん等を対象としたフェーズ2/3試験（試験名：REJOICE-Ovarian01）におけるフェーズ2パートの結果について、ESMOでの初のデータ発表

**【Next Wave】**

当第3四半期累計期間におけるNext Waveの主な進捗は次のとおりです。なお、各臨床試験の状況については、決算補足資料に掲載しています。

- ・2025年10月、前治療歴のある進行性固形がんを対象としたDS-3939（抗TA-MUC1 DXd ADC）のフェーズ1/2試験における用量漸増パートについて、ESMOでの初のデータ発表
- ・2025年11月、進行性固形がんを対象としたDS3610（STINGアゴニストADC）のフェーズ1試験の開始

## (2) 当四半期の財政状態の概況

- ・当第3四半期末における資産合計は3兆8,218億円となりました。現金及び現金同等物が減少した一方で、棚卸資産、有形固定資産、並びに営業債権及びその他の債権の増加等により、前期末より3,657億円の増加となりました。
- ・負債合計は2兆1,113億円となりました。営業債務及びその他の債務が減少した一方で、社債及び借入金（非流動）、並びに契約負債（非流動）の増加等により、前期末より2,786億円の増加となりました。
- ・資本合計は1兆7,105億円となりました。配当金の支払及び自己株式の取得（1,574万株、585億円）による減少があった一方で、四半期利益の計上等により、前期末より871億円の増加となりました。
- ・親会社所有者帰属持分比率は44.8%となり、前期末より2.2%減少しております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

- ・2025年10月31日に公表した2026年3月期連結業績予想から変更はありません。

## (4) 株主還元に関する説明

- ・当社は、持続的な企業価値の向上を図るため、成長戦略の展開に不可欠な投資の実行と株主の皆様への利益還元を総合的に勘案し、利益配分を決定することを経営の基本方針としております。
- ・第5期中期経営計画期間（2021年度-2025年度）においては、利益成長に応じた増配と機動的な自己株式取得により、株主還元の更なる充実を図り、株主価値を最大化することを目指しております。

### <利益成長に応じた増配>

- ・2024年度については、期末配当として、1株当たり30円の配当金を2025年6月24日にお支払いしました。年間配当金は、2024年12月10日にお支払いした中間配当30円と合計で1株当たり60円でした。
- ・2025年度については、エンハーツ等の更なる売上拡大により、引き続き利益成長が見込まれること等から、1株当たり年間配当は2024年度に比べ18円増配の78円を予定しています。なお、2025年10月31日開催の取締役会において、中間配当として1株当たり39円の普通配当を実施することを決議し、中間期末時点の株主の皆様に2025年12月10日にお支払いしました。

### <機動的な自己株式の取得>

- ・当社の将来における収益性が株価に十分に織り込まれていないと考える状況に対して機動的な対応を図るべく、2025年3月3日から2025年4月8日までに、1,397万株の自己株式を500億円で取得し、取得した全株式を2025年5月30日に消却しました。
- ・更に、株価水準等を総合的に勘案した機動的な自己株式取得を可能とするため、2025年5月1日から2026年3月24日にかけて、取得総額2,000億円または取得株数8,000万株を上限とした自己株式の取得枠を設定することを2025年4月25日開催の取締役会において決定しました。

## 2. 要約四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び現金同等物	639,838	541,451
営業債権及びその他の債権	619,101	695,951
その他の金融資産	80,890	140,580
棚卸資産	514,910	651,209
その他の流動資産	47,443	66,032
小計	1,902,183	2,095,225
<b>売却目的で保有する資産</b>	7,250	—
<b>流動資産合計</b>	1,909,433	2,095,225
<b>非流動資産</b>		
有形固定資産	498,517	578,015
のれん	108,429	112,420
無形資産	235,839	243,808
持分法で会計処理されている投資	5,600	5,278
その他の金融資産	139,175	141,148
長期前渡金	167,428	210,371
繰延税金資産	305,019	359,881
その他の非流動資産	86,675	75,662
<b>非流動資産合計</b>	1,546,685	1,726,586
<b>資産合計</b>	<b>3,456,119</b>	<b>3,821,811</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>負債及び資本</b>		
<b>負債</b>		
<b>流動負債</b>		
営業債務及びその他の債務	579,957	568,500
社債及び借入金	399	403
その他の金融負債	14,720	14,264
未払法人所得税	60,369	75,725
引当金	5,804	24,621
契約負債	67,956	72,983
その他の流動負債	24,825	22,055
<b>流動負債合計</b>	<b>754,032</b>	<b>778,554</b>
<b>非流動負債</b>		
社債及び借入金	100,933	300,151
その他の金融負債	43,675	39,671
退職給付に係る負債	1,559	2,258
引当金	13,030	12,877
契約負債	751,038	813,715
繰延税金負債	11,066	11,701
その他の非流動負債	157,365	152,331
<b>非流動負債合計</b>	<b>1,078,670</b>	<b>1,332,707</b>
<b>負債合計</b>	<b>1,832,703</b>	<b>2,111,262</b>
<b>資本</b>		
<b>親会社の所有者に帰属する持分</b>		
<b>資本金</b>	<b>50,000</b>	<b>50,000</b>
<b>自己株式</b>	<b>△147,321</b>	<b>△156,328</b>
<b>その他の資本の構成要素</b>	<b>263,693</b>	<b>306,997</b>
<b>利益剰余金</b>	<b>1,457,044</b>	<b>1,509,879</b>
<b>親会社の所有者に帰属する持分合計</b>	<b>1,623,416</b>	<b>1,710,549</b>
<b>資本合計</b>	<b>1,623,416</b>	<b>1,710,549</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>3,456,119</b>	<b>3,821,811</b>

## (2) 要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書

## 要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上収益	1,367,567	1,533,459
売上原価	321,459	366,606
売上総利益	1,046,107	1,166,853
販売費及び一般管理費	522,990	597,663
研究開発費	302,646	339,779
その他の収益	27,983	4,365
その他の費用	141	0
営業利益	248,311	233,775
金融収益	31,231	39,532
金融費用	4,776	4,418
持分法による投資損益	233	1,060
税引前四半期利益	275,000	269,950
法人所得税費用	66,396	52,503
四半期利益	208,603	217,446
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	208,603	217,446
1株当たり四半期利益		
基本的1株当たり四半期利益（円）	109.65	117.34
希薄化後1株当たり四半期利益（円）	109.58	117.28

## 要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期利益	208,603	217,446
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産	2,069	4,355
確定給付制度に係る再測定額	△0	0
その後に純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の換算差額	27,619	45,400
キャッシュ・フロー・ヘッジ	886	77
税引後その他の包括利益	30,574	49,834
四半期包括利益	239,178	267,280

## 四半期包括利益の帰属

親会社の所有者	239,178	267,280
---------	---------	---------

## (3) 要約四半期連結持分変動計算書

前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分						
	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素			
				新株予約権	在外営業活動体の換算差額	キャッシュ・フロー・ヘッジ	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産
2024年4月1日 残高	50,000	1,962	△36,629	560	243,928	△232	39,742
四半期利益	—	—	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	27,619	886	2,069
四半期包括利益	—	—	—	—	27,619	886	2,069
自己株式の取得	—	△80	△191,703	—	—	—	—
自己株式の処分	—	△17	383	△44	—	—	—
配当金	—	—	—	—	—	—	—
株式報酬取引	—	3,143	—	—	—	—	—
子会社の支配喪失に伴う変動	—	—	—	—	—	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	—	—	—	△7,385
非金融資産等への振替	—	—	—	—	—	△654	—
その他の増減	—	—	—	—	—	—	—
所有者との取引額等合計	—	3,044	△191,320	△44	—	△654	△7,385
2024年12月31日 残高	50,000	5,007	△227,950	515	271,547	—	34,426

(単位：百万円)

	親会社の所有者に帰属する持分				
	確定給付制度に係る再測定	その他の資本の構成要素合計	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分 資本合計
					資本合計
2024年4月1日 残高	—	283,998	1,388,842	1,688,173	429 1,688,603
四半期利益	—	—	208,603	208,603	— 208,603
その他の包括利益	△0	30,574	—	30,574	— 30,574
四半期包括利益	△0	30,574	208,603	239,178	— 239,178
自己株式の取得	—	—	—	△191,784	— △191,784
自己株式の処分	—	△44	—	320	— 320
配当金	—	—	△114,408	△114,408	— △114,408
株式報酬取引	—	—	—	3,143	— 3,143
子会社の支配喪失に伴う変動	—	—	—	—	△429 △429
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	0	△7,384	7,384	—	— —
非金融資産等への振替	—	△654	—	△654	— △654
その他の増減	—	—	405	405	— 405
所有者との取引額等合計	0	△8,083	△106,618	△302,977	△429 △303,407
2024年12月31日 残高	—	306,489	1,490,827	1,624,374	— 1,624,374

当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

(単位：百万円)

親会社の所有者に帰属する持分							
その他の資本の構成要素							
	資本金	資本剰余金	自己株式	新株予約権	在外営業活動体の換算差額	キャッシュ・フロー・ヘッジ	その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産
2025年4月1日 残高	50,000	—	△147,321	424	228,137	—	35,130
四半期利益	—	—	—	—	—	—	—
その他の包括利益	—	—	—	—	45,400	77	4,355
四半期包括利益	—	—	—	—	45,400	77	4,355
自己株式の取得	—	△52	△58,492	—	—	—	—
自己株式の処分	—	—	350	△11	—	—	—
自己株式の消却	—	△5,961	48,971	—	—	—	—
配当金	—	—	—	—	—	—	—
株式報酬取引	—	6,013	164	—	—	—	—
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	—	—	—	—	—	—	△6,440
非金融資産等への振替	—	—	—	—	—	△77	—
その他の増減	—	—	—	—	—	—	—
所有者との取引額等合計	—	—	△9,006	△11	—	△77	△6,440
2025年12月31日 残高	50,000	—	△156,328	412	273,538	—	33,046

(単位：百万円)

親会社の所有者に帰属する持分					
その他の資本の構成要素					
	確定給付制度に係る再測定	その他の資本の構成要素合計	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	資本合計
2025年4月1日 残高	—	263,693	1,457,044	1,623,416	1,623,416
四半期利益	—	—	217,446	217,446	217,446
その他の包括利益	0	49,834	—	49,834	49,834
四半期包括利益	0	49,834	217,446	267,280	267,280
自己株式の取得	—	—	—	△58,544	△58,544
自己株式の処分	—	△11	△67	271	271
自己株式の消却	—	—	△43,009	—	—
配当金	—	—	△128,527	△128,527	△128,527
株式報酬取引	—	—	—	6,177	6,177
その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替	△0	△6,440	6,440	—	—
非金融資産等への振替	—	△77	—	△77	△77
その他の増減	—	—	553	553	553
所有者との取引額等合計	△0	△6,529	△164,610	△180,147	△180,147
2025年12月31日 残高	—	306,997	1,509,879	1,710,549	1,710,549

## (4) 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期利益	275,000	269,950
減価償却費及び償却費	50,668	56,336
減損損失（又は戻入れ）	2,014	1,686
金融収益	△31,231	△39,532
金融費用	4,776	4,418
持分法による投資損益（△は益）	△233	△1,060
固定資産除売却損益（△は益）	△2,035	1,392
営業債権及びその他の債権の増減額（△は増加）	△156,813	△42,304
棚卸資産の増減額（△は増加）	△34,298	△114,287
長期前渡金の増減額（△は増加）	△51,680	△42,942
営業債務及びその他の債務の増減額（△は減少）	△17,108	△41,628
契約負債の増減額（△は減少）	82,766	67,407
その他	△65,066	32,101
小計	56,757	151,537
利息及び配当金の受取額	18,036	16,232
利息の支払額	△913	△1,321
法人所得税の支払額	△92,156	△114,702
営業活動によるキャッシュ・フロー	△18,275	51,745
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△38,046	△128,505
定期預金の払戻による収入	349,475	26,749
投資の取得による支出	△139,013	△71,148
投資の売却及び償還による収入	316,035	124,075
有形固定資産の取得による支出	△79,854	△97,960
有形固定資産の売却による収入	490	15
無形資産の取得による支出	△46,949	△18,168
子会社及び関連会社の売却による収入	5,250	7,250
貸付けによる支出	—	△1
貸付金の回収による収入	17	0
その他	△304	△2,016
投資活動によるキャッシュ・フロー	367,101	△159,711
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の発行及び借入れによる収入	—	300,000
社債の償還及び借入金の返済による支出	△299	△100,301
自己株式の取得による支出	△191,784	△58,544
自己株式の売却による収入	—	0
配当金の支払額	△114,402	△128,543
リース負債の返済による支出	△12,771	△11,679
その他	0	△515
財務活動によるキャッシュ・フロー	△319,258	415
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	29,567	△107,549
現金及び現金同等物の期首残高	647,180	639,838
現金及び現金同等物に係る換算差額	5,399	9,162
現金及び現金同等物の期末残高	682,148	541,451

(5) 要約四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(要約四半期連結財政状態計算書)

前連結会計年度において非流動資産の「その他の非流動資産」に含めていた「長期前渡金」は、金額的重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間から独立掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財政状態計算書の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結財政状態計算書において、非流動資産の「その他の非流動資産」に表示していた金額の一部（167,428百万円）を非流動資産の「長期前渡金」として組替えております。

(要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書)

前第3四半期連結累計期間において営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めていた「長期前渡金の増減額」は、金額的重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間から独立掲記しております。

この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書の組替えを行っております。

この結果、前第3四半期連結累計期間の要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に表示していた金額の一部（△51,680百万円）を「長期前渡金の増減額」として組替えております。

(セグメント情報)

当社グループは、「医薬事業」の単一セグメントであるため、報告セグメント別の記載は省略しております。